



Heart of
Mozart

盛り上がる祝祭ムードの中、例年にもまして
人気と注目が集まるモーツァルトは、フルー
トのレパートリーでも、絶対にはずせない重
要な作曲家。そこでこの機会に、各地で活躍
するフルート奏者たちに、アンケート形式で
モーツァルトへの想いを寄せていただいた。

フルート奏者が語る

モーツァルトと私

1) 「フルートとハーブのための協奏曲」。美しい旋律にモーツァルトの「純真な心」が表れているような気がします。

2) モーツァルトの作品を演奏する時にいつも感じることは、「純真な心」です。

少年時代の作品では、明るく嬉びやかな中にどこことなく寂しさを感じさせられる部分があります。これは、モーツァルト自身が天才と呼ばれ、父親と共に演奏活動を行なうために長い旅に出て、音楽一筋の生活を送っており、普通の少年としての楽しみや生活にあこがれていたのでは？と感じるからです。

モーツァルトの作品を演奏するたびに「新しさ」と「純粋さ」を感じ、人生の中で忘れていた大切なことも思い出させてくれます。「モーツァルトの心」とはこれかなと……。

3) ヘンデルが音楽の「旧約聖書」、バッハが「新約聖書」、モーツァルトは「音楽辞典」というイメージを持っています。何かに疑問を感じたとき、モーツァルトの音楽は答えを出してくれるような気がします。モーツァルトの時代に、現在の楽器のように完成されたフルートがあれば、もっとたくさんのフルート作品を残してくれたことと思います。残念！

4) 後期バロック音楽、ロココ音楽の影響を受けたモーツァルトが古典派の音楽を確立し、そして次の時代へと続く音楽に影響を与えた斬新な考え方。その中に生きる、伝統を重んじる古典的な考え方。これが、ある時には神秘的、またある時は現実的表現となり、人々の心に感動を与えるのではないのでしょうか。

5) 「レクイエム 二短調」、歌劇「魔笛」



岡村考二

Koji Okamura

東京バロックアンサンブル代表
文京学院大学生涯学習センター講師